

今回は、第2回不審者対応訓練、ヒヤリハット事例作成の取り組み、先進校研究授業参観・公開訓練参観について報告します。

<第2回不審者対応訓練> 日時:2月10日(月)放課後 教職員だけで実施

想定 ・5校時に学校敷地内に不審者が侵入。

- ・不審者の侵入経路、負傷者に関する情報はいずれも職員に不明のまま訓練実施。
- ・負傷者に関する情報は札などで判断する。

○事前打ち合わせ

◎対策本部 ◎不審者対応班(GOGO班) ◎救護・救助班 ◎児童生徒対応班

それぞれで、動きや今回の訓練でのめあての確認 ⇒ 全体で共有

○訓練の実際

運動場から、剪定業者を装い体育館側から校舎に侵入。笛や大声、トランシーバーや放送で不審者の位置を知らせ、GOGO班がさすまで早急に対応。不審者に声かけ対応から、さすまで身動きが取れない状態までおよそ4分半、警察が到着し確保までおよそ7分半。

児童生徒対応班は、放送の合図や周囲の異変(笛・大声)で使用教室を速やかに施錠し侵入を防止。

救助・救護は、負傷者や行方不明者の情報をもとに手当と捜索。

本部は、状況の情報収集を行い、警察に出動要請と消防に救急要請。

対策本部

GOGO班

【前回(6/10)の振り返り】

- ・職員室に向かうことが難しかった。』
- ・『現場での教訓の情報はどういう形で収集するか。』

【今回の訓練のポイント】

- ・本部で行けない場合など情報共有の仕方

【前回(6/10)の振り返り】

- ・ダメでの会話

【今回の訓練のポイント】

- ・警笛があるまでの時間はあります。

・不審者を警笛で引寄せた他のの方

・まず守る・不審者の対応

○事後振り返り

不審者役、警察・消防役、負傷児童生徒の保護者役から訓練で感じたことの共有。

◎対策本部 ◎不審者対応班(GOGO班) ◎救護・救助班 ◎児童生徒対応班

それぞれで、今回の訓練の動きや対応、めあての振り返り ⇒ 全体で共有



振り返り

- ・不審者の位置情報を知らせるために笛、大きな声が有効だった。放送の効果的での伝達を増やす。

・本部への情報伝達。速やかにリアルタイムで。トランシーバーの活かし方。

・不審者対応で、児童生徒の近くで強引に取り押さえようとせず、警察到着まで時間稼ぎ、外へ追いやる意識。

教師の負傷も最小限に。さすまたがなくとも長い棒やスプレーを各所常備し、威嚇に用いる。

・警察出動要請、救急要請、負傷児童生徒の保護者への連絡で、伝達できた内容と不足があった内容を整理。

<オープンデー(5つ星プロジェクト)でのヒヤリハット事例の共有、協議> 日時2月19日(水)

「オープンデー」は、本校の児童生徒に関わる、多職種の関係者と連携を進めるための取り組みで、

5つ星プロジェクトは、学校・家庭・福祉・医療・行政の5者が星のようにつながり連携することをめざしています。

○学校安全(小野特別支援学校の実践)・ヒヤリハット事例作成を中心に報告

・本校の学校安全総合支援事業での取り組みについて、ヒヤリハット事例を中心に発表した。

○グループ協議 危機管理・ヒヤリハットについて各事業所等で取り組まれていること。

グループ協議で出た意見

- ・ヒヤリハット事例を事業所全体で共有していくことの難しさがある。
- ・ヒヤリハット事例で、危険を予測して対応するのはいいが、危険から遠ざけるだけではなく子どもの成長や実態に合わせて、自ら危険を回避できる自立性を育していく必要があると感じた。
- ・ヒヤリハット事例は、クラウドやアプリ等、すぐ見られるものでまとめている。利用者ごと、場面ごとにまとめている。必要なものは、一斉共有を行っている。
- ・ヒヤリハット事例等をもとに、危険認知が低い間は、周りの環境で回避していく。危険認知が高くなつていけば、利用者が自分自身で意識を高めていくことができるようにしていく。



<先進校研究授業参観・公開訓練参観>

☆第48回 全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会

大会主題 「自他の生命を尊重し、安全のために行動ができる児童・生徒の育成

—危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために—」

日時:令和7年2月14日(金) 実践校:東京都北区立堀船小学校

1年1・2組	特別活動	あんぜんにどうろをわたろう、あるこう!~あんぜんマスターへのみち~	交通安全
3組	特別活動	たいせつなじぶん、たいせつなみんな<生命(いのち)の安全教育>	生活安全
2年1組	特別活動	おうちあんぜん大さくせん!	生活安全
2年2・3組	特別活動	大切なじぶん、大切なみんな(2)<生命(いのち)の安全教育>	生活安全
3年全	社会科	火事からくらしを守る	災害安全
4年全	総合	水害からくらしを守る	災害安全
5年全	体育科	自分にできること～命を守る～	生活安全
6年全	国語科	デジタル機器と私たち	生活安全

研究発表

○1、2年生は生活安全、交通安全、3、4年生は災害安全、5、6年生は生活安全を行っていた。

内容は、性教育やネチケット教育を含んでおり、本校で取り組んでいることと大きく変わらない。教科学習との関連性を明確に示され、年間計画を立て意図的、計画的に領域を整理して学習しているため、連続性のあるものになっている。

○今年度は「家庭、地域、関係機関等の連携・協働による学校安全の推進」「学校における安全に関する教育の充実」に重点的に取り組まれていた。研究主題でもある「安全のための行動ができる児童の育成」ということで、「自分ごととして捉えること」、守られる側ではなく、自分もできることは何か、今自分がすべきことは何かを考え行動できる人に育てるために、「知る・理解する→気づく・予測する→考える・行動する→貢献する」の流れを意識した学習計画を立てられていた。

☆大阪教育大学附属池田小学校研修会

研究テーマ 「学びを紡いでいく子供」～学びの過程に焦点をあてて～

日時:令和7年2月22日(土) 授業公開3時間、不審者対応訓練公開

※他の教科も含め全学年3時間授業公開。下記は、参観した学校安全に関わる授業。



3年南組	社会	火事からくらしを守る ~ 救急搬送の危機 ~	災害安全
2年西組	安全	地震への備え ~ 「いざ」と「いつも」を紡いでいく ~	災害安全
6年東組	安全	阪神淡路大震災 ~ 自分・友達・教材の関係性から学びを紡いでいく~	災害安全

「学びを紡いでいくとは、自らの目的や目標を達成するために過去・現在で得た知識や経験、事柄をもとに新たな学びを生む姿のこと。これは、子供が紡ぐもので、教師の誘導や意図のみでつながれた学びではない」

○子供が必然性を持てるような授業デザイン。 ○子供の学びの過程を丁寧に見取る。

○子供の学びが、「個」に返る場面を大切にする。

低学年から、自分の考えを持つよう機会を設定し、友だちと意見を交流する習慣が身についていた。3年生の授業では、賛成反対の立場を取り、クロストークの中で速やかで効果的な救急車利用について考えが深められていた。6年生では、友だちの意見に共感しながら、震災の語り継ぎについて、自分の意見を述べることができていた。生活科や社会科、総合学習等の教科と関連づけて安全科の学習を行い、幅広い視点から自分の考えがまとめられていた。

最終的に、学びが「個」に返るということで、授業の振り返りには、今日学んだことから自分は、これからどう行動するか、自分にできることは何か、具体的に描き発表することができていた。

「安全科」… 平成21年に教育課程特例校に指定された当初は、「安全科」として各学年年間35時間の実施。しかし、各教科・領域において安全にかかわる内容が、安全科の内容と重複することも多く、カリキュラム・マネジメントして令和3年より「安全科15時間+各教科」の教科横断型で35時間の安全教育として位置づけることによって総合的に児童が学べるように工夫されていた。



